

2018年制作 陶磁作品群

Works, 2018

加藤 真美 *Mami Kato*

(芸術学部)



(Seeschloss Ort.Palast ,Gmunden Austria)

近年多様なシチュエーションでの作や発表の機会を与えられることが増えてきた。
その中から3つ、
東海市芸術劇場，ギャラリーCERA（常滑），Seeschloss Ort 城（オーストリア）
これらの展示を作品画像を中心に振りかえってみたい。

東海市芸術劇場
Tokai City Art Theater
2018/3/17~3/31



作っていると，それぞれが人のように性格を持つように感じる。
彼らは黙して佇みながら ゆくえのしれぬ吐息を
ひっそりと吐き出している。



I feel as if
pots have character like human
Sitting quietly they sigh,
flow to nowhere.
磁土 灰釉
還元冷却焼成
Porcelain, Ash glazes
Reduction 1280°C

フォルム
Form



ダイアローグ
Dialogue



惑星
Planets

昨年、2017年度東海市芸術劇場専属レジデンスアーティストとして選定を受けることになった。そこで1年を通して劇場内工房で市民に陶芸に親しみ理解を深めてもらうためのワークショップと公開制作を行った。年度末2018年3月には同館内ギャラリーで個展を行いレジデンス活動の締め括りとした。これらはその作品群である。

In 2017, I was selected as Annual residence artist of Tokai City Art Theater. Though the year, I did demos and workshops, to make ceramics more familiar to citizens. These are the works made during my residency, and exhibited at Tokai Art Theater Gallery in March 2018.



h. 24.5 cm

Gallery CERA
—かたちしりと—
2018/5/25~6/4



バイフェロ配合土
土灰単味吹付
還元冷却焼成 1280℃
Stone ware Ash sprayed
Reduction gass kiln

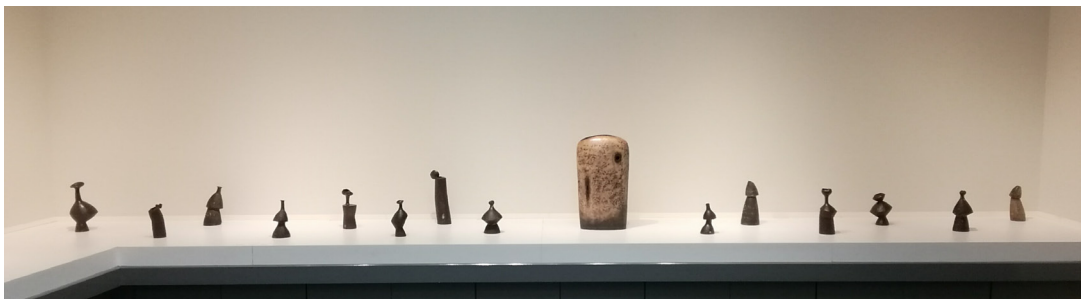


この5,6年磁土による板作り技法で制作してきたが、技法が造形に限界を作っているように感じたので紐作りで制作することにした。土も磁土でなく、耐火度が若干劣る鉄分の多い黒いバイフェロ配合土を選んだ。

今回の造形の着想は、二つのカップが伏せ重ねられている様子が一つの形としてみえたところから始まった。紐作りで徐々に積んでいく過程で、その先に続く様々な形のバリエーションが浮かんで見え次の作品の形へとつながっていったので展覧会の題を「-かたちしりとリー-」とした。板作りに勝る即興的・瞬発的自由度があって楽しみながら制作出来た。作品も磁器のものに比べ、能動的な感じがするように思う。

I have been working with porcelain by slab building for these 5,6 years. Somehow I felt a kind of limit in forming with this technique, so I decided to make by coiling, with iron rich stone ware.

One day, I saw two cups inverted one on the top of the others. This silhouette was the beginning of imagination. When coiling, I could imagine various forms which continues from present shape. It was such fun to work following spontaneous images, making without prepared plans.





TOPFERMARKT Gmunden
オーストリア
2018/8/24-28

ポスターに私のポットが
My teapot, on poster



8月、オーストリア焼き物の街 Gmunden で市が主催する陶器市に参加をする機会を得た。風光明媚な湖畔で毎夏催されている。今年は第30回記念ということで日本が招待国、マーケット販売のほか湖の中に立つ Seeschloss Ort 城で日本人作家6名で展示を行った。

私は黒土の塔のような壺と「月下群」と名付けた20の磁器碗を展示、両作あわせて見ても物語が感じられるよう配置した。城の中、刻々と変化する窓からの外光で見る自作は格別であった。

末尾ながらきめ細やかにお世話して下さいました Vladimir 夫妻、市の Eva 女史に心より感謝したい。On 2018, “TOPFERMARKT Gmunden” celebrated 30 year anniversary and Japan was invited as the guest country. Six Japanese artists exhibited at Seeschloss Ort castle, besides participating the market.

I placed 20 porcelain bowls “Moon Light”, with black-clay vessel, which looks like tower. It was impressive to see how my works look in historical architecture, in natural light.